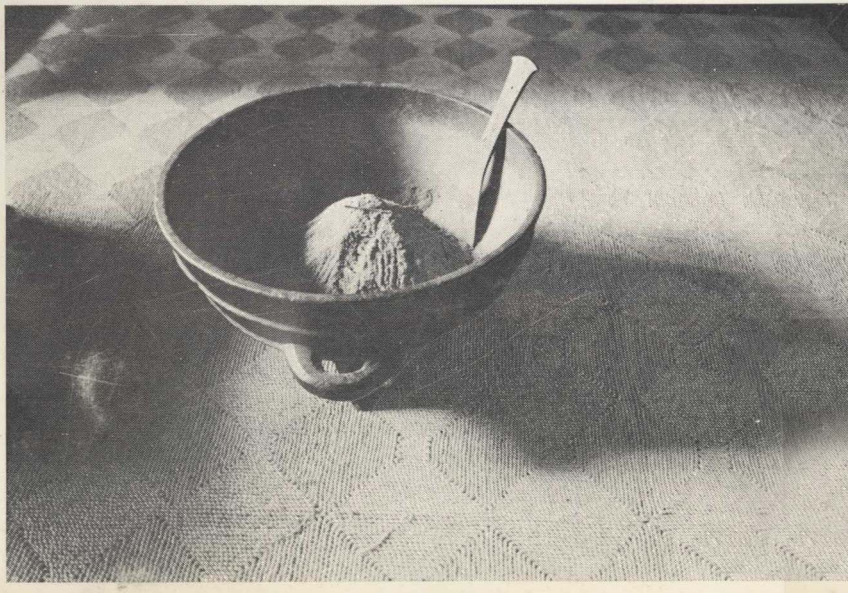
俳句現代派選集 8

孤　座

西尾千佳子



フォト・伊丹三樹彦

略歴

西尾千佳子（にしお・ちかこ）
明治44年羽曳野市に生まれる。
昭和50年5月青玄入会以後伊丹三樹彦に
師事現在に至る。
昭和52年青玄同人
昭和54年句集「近遊」
昭和55年青玄賞受賞

俳句現代派選集　8

句集　孤座
昭和57年11月21日発行
著者　西尾千佳子
〒662 西宮市甲陽園本庄町6-50-977
電話0798-72-6110
発行人　俳句現代派選集企画部
代表　津根元　潮
印刷　大洋印刷産業株式会社
発行所　青玄三光会出版部
〒130　東京都墨田区両国3—24—7
ヴィラ・ロイヤル601津根元方
電話03—631—6106
郵便振替口座　東京7-27590

頒価1,200円　送料200円

句集

孤座

西尾千佳子

念中

昭和五十四年―五十六年

序詞

伊丹三樹彦

俳句の名において
不易を
現代派の名において
流行を
志す
仲間たちの
詩華集を
陸続として
世に送る

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

目次

序詞　伊丹三樹彦　1
念中　昭和54年～56年　4
ありありて　昭和57年　79
伊丹三樹彦「青玄秀句について」抄　98
あとがき　109
カバー写真〈灰器（はいき）（河井寛次郎記念館）〉・伊丹三樹彦

砂の上の家に火を焚く　若布刈竿

何もない部屋にも四隅　春は逝く

さても霞む生身よ　仏のなかにいて

ひわ　ひわと板橋渡る　根白草

隣室の咳しずまれば　墨すらむ

水子地蔵の灯にもらう径　春の泥

乳ボーロ食むも晩年　山笑う

わが膝は　わが手おくため　日向ぼこ

あだし野に筍でよと　夜の嵐

匙で切る苺　別れの雪舞って

薄氷に加わる光　鳥礫

わが髪に打たれる痛さ　春疾風

狐雨　背に仏らの眼がざわざわ

化野の走り筍　篤(とく)と見る

楷くべて　身の内に影折りたたむ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

冴え返る　墨師即ち　手力男

髪梳けば　徐徐におさまる冬の浪

萩刈って　日向に泛かす無縁墓

初蝶のいったん墓地に戻って消え

シスターと同じ買物　白桃咲く

盤切桶しめらす朝の　桃の花

くらがり向き　水を飲む犬　地蔵山

寒い影は地に走らせて　鷺はとぶ

白鷺の胸毛ふかれて　夕芦火

知りたくて木を見上げてる　寒雀

雛流れゆきし方より　雷鳴す

ロケットでぬくもる亡夫　余花の昼

はたてまで天を焦がして　春は逝く

白牡丹　描いて濁らす　絵筆の水

喪服着て身にこもる熱　花明り

花は葉に　青い炎で煮焚して

牡丹百　塀のむこうで穴を掘る

病むそばに鍵ひとつおく　走り梅雨

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo